

キャリア教育 夏の自由課題2

問、次の文を読んで考えるところを述べて下さい。(震災下であること、受験直前であることなど優先順位の設定はそれぞれに委ねる)

多くの人命が一瞬で失われた被災地で、私は二人の対照的な高校生の行動を見た。今でも、そのことが頭から離れない。この二人の高校生は、我々に重要なことを示唆してくれている。

一人は、成績があまり良くない生徒。部活動も熱心にはやってはいなかった。そんな彼は、巨大地震の直後、地域の人たちが大挙して高校に避難してくると、自ら路上で交通整理を一生懸命やっていた。彼は、翌日から、被災した自宅のあった陸前高田市に戻って避難所で暮らすようになってからも、積極的に交通整理をし、支援物資を運んだり避難者の世話をした。

もう一人の生徒は、自宅は大船渡市内の高台にあって流されずに済んだ。震災から2週間後、成績の良かった彼は閉鎖中の学校にやってきて、職員室にいた教師にこう尋ねた。

「家では何もやることなく、勉強したいのでプリントをください」
教師がプリントを渡すと、「これでは足りなくなると思うから、もっとください」と彼は言った。教師は追加してプリントを渡した。自宅は難を逃れ、家族は無事だったとしても、周囲には被災した人々が多数おり、同じ高校にもボランティア活動をしている生徒がたくさんいることを知っていたはずだ。

この対照的な二人の生徒の行動について、皆さんはどう思うだろうか。また、三人目の生徒に対応した教師の行動をどう感じるだろうか。

どんな行いが正しいのか、もちろん簡単に断言できるような正解はない。

村上育朗『心を動かす教育論』(学研マーケティング 2013年7月)より